

# 2016 年度企画展「石展2—かながわの大地が生み出した石材—」

## はじめに

2016年1月から3月にかけて、神奈川県立歴史博物館において、「石展 かながわの歴史を彩った石の文化」(以降、「石展」と呼ぶ)を開催しました。この展示は、21年前まで総合博物館であった神奈川県立博物館が、人文系の神奈川県立歴史博物館と自然系の当館とに分かれてから初めての共催の特別展でした。この展示では、冒頭に自然系の展示として神奈川県産の大地の生い立ちと岩石を紹介した後で、神奈川県産の石材を広く浅く紹介しました。メインは人文系の展開で、神奈川の各時代を象徴する石造物を紹介した後で、「人」の視点からの石の移動、用途の視点からの石の移動、そして石材が活用された製品を紹介しました。

## 「石展2」とは

2016年の12月には、「石展」の続編として、当館において企画展「石展2—かながわの大地が生み出した石材—」を開催します。「石展2」では、神奈川県内から産出する石材ごとに、これらがどのよう

な地層または岩体から産出するのか、それはいつ、どこで、どのようにできたのかを、地学的視点で紹介します。さらに石材の特徴、例えば硬く丈夫であることや、軟らかく加工しやすいことなどを紹介し、実際に作成された石造物を展示、または写真を用いて人文的な視点で紹介する予定です。展示する資料は、「石展」で展示したものと同様です。しかし、展示ストーリーが大幅に変わっていますので「石展2」としました。

## 神奈川の石材

神奈川県の地質図に石材産地を示しました(図1)。これまでに知られている石材産地に、「石展」を開催するにあたり調査してわかった産地を加えたものです。箱根火山の周辺に石材産地が多く分布し、一方で横浜、川崎方面は石材を産していないことがわかります。箱根火山の南部に産する小松石や、丹沢山地の東、厚木市七沢周辺に産する七沢石などは比較的有名で、県外でも広く使われているため、一度はご覧になられた方も多

かと思います。この調査で興味深かったのは、「かま石」もしくは「かまど石」と呼ばれる石材の存在です。これらの石材は非常にマイナーで、地産地消ゆえに石材名も明確でないことが多いようです。図中では、湯河原町のかま石、小田原市の久野石、二宮町のかまど石などのその例です。これらの石材は、特徴として軟らかく加工しやすいことにあり、身近にある裏山の石を切り出して、土台から石垣、倉、かまどなど様々なものに使用してきました。横浜市や川崎市に分布する地層にも似たような性質を持つものがあるので、石の利用が予想されますが、残念ながら採石場の跡はないようです。もしも採石場跡の情報や、ご自宅に製品をお持ちの方がおられましたらご一報頂けるとありがたいです。

## おわりに

「石展2」は、「石展」に引き続き、神奈川県立歴史博物館との共催で、歴史的に意義のある展示物も出品します。石材を題材に、自然系と人文系の両方を楽しんでご覧いただければと思います。

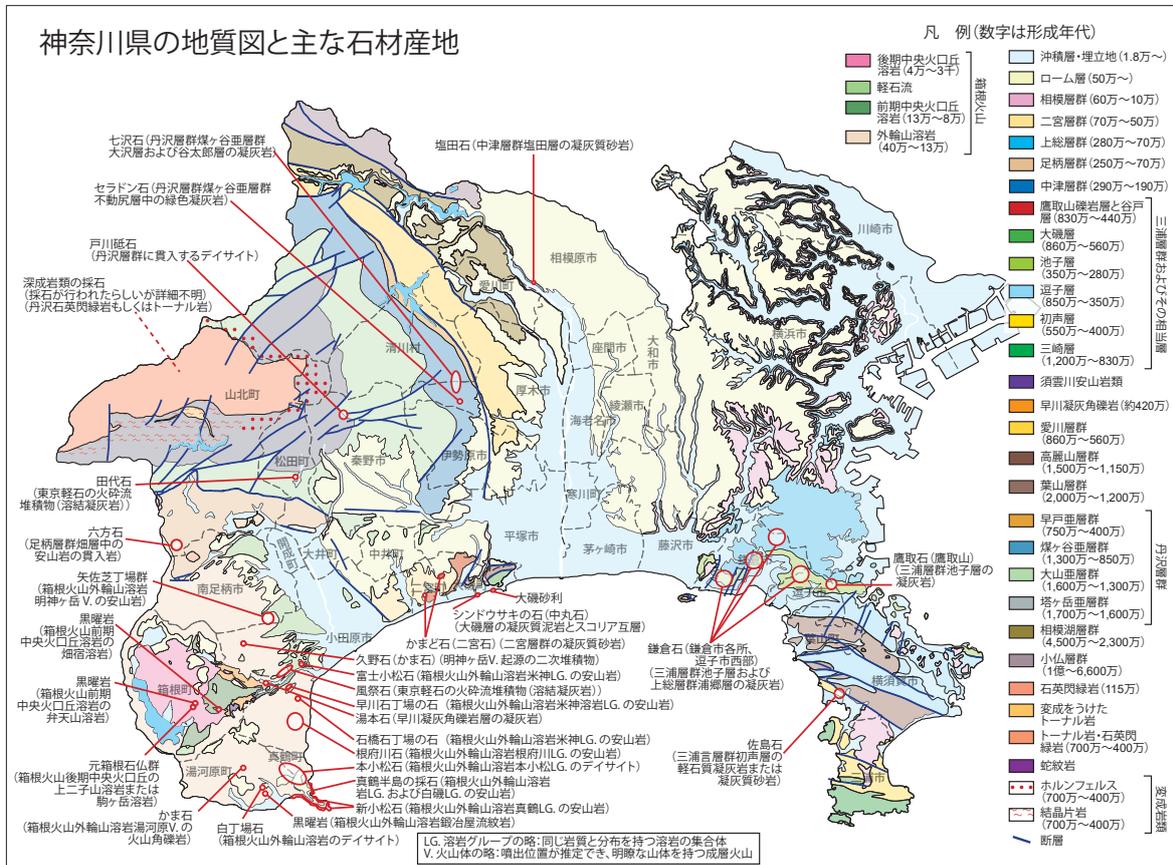


図1 神奈川県の地質図と石材産地. 特別展図録「石展 かながわの歴史を彩った石の文化」(神奈川県立歴史博物館, 2016)を改変. 原図の地質図は、神奈川県立生命の星・地球博物館編(2016)を加工したものである。